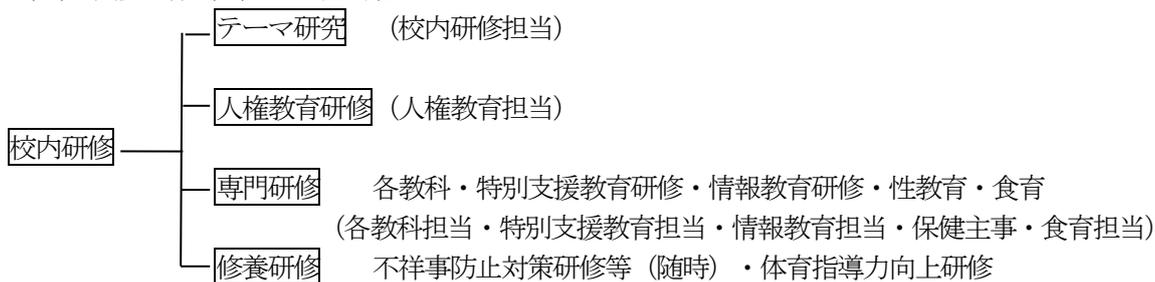


7 令和6年度 校内研修全体計画

1 研修の内容及び時間

(1) 研修内容 () 内は担当者



(2) 研修時間 15:10～16:10

※ 授業研や講師招聘の際は16:30までです。

※ 長期休業日の校内研修については、別途計画する。

2 テーマ研究

(1) 研究主題

進んで考え、表現する児童の育成

～導入の工夫と学び合いに焦点をあてた授業づくりを通して～

(2) 研究主題設定の理由

ア 教育の今日的課題から

今日、技術革新や情報化によって我々を取り巻く生活環境、社会環境は急速な変化を続けている。このような予測できない社会を生きていく児童には、社会や他者の多様性を受け入れながら、様々な情報を取捨選択し、再構築し、新しい価値につなげたり、個性を生かして多様な人々と協働したりする力が求められている。また、単に新しい知識を増やすだけでなく、自ら課題を見つけ、学び方を身に付け、自ら得た知識を活用していく力とともに、更にそれを生活や社会に生かそうとする態度を育てていくことが重要になってくる。

そこで、研究主題を「進んで考え、表現する児童の育成」と設定することで、課題に主体的に取り組み、自分の考えを持ち、他者と表現し合うことで新たな価値を見つけ、社会の変化に対応する力を身につけたいと考えた。

イ 本校の教育目標から

本校では「夢をもち、夢をはぐくみ、夢を実現する教育へのチャレンジ!—考動力—」を教育目標に掲げ、目指す児童像を「生活や社会の中で生きて働く知識・技能を習得する子供」「豊かに深く考え、表現し実践する子供」「他を思いやり粘り強く頑張る子供」とし、その具現化に向けて日々教育活動に取り組んでいる。

学校教育目標と目指す児童像の具現化のためには、主体的・対話的で深い学びの中で、児童一人一人が学ぶことへの意欲を高め、課題に対する自分の考えを持ち、その解決のために学び続けることが大切であると考えた。このことから、本研究は本校の教育目標につながるものとする。

ウ 昨年度の取組の成果と課題

令和4、5年度は菊陽町の学力充実推進校として、「進んで考え、表現する児童の育成」というテーマで研究を行った。特に「対話活動の工夫」と「振り返りの工夫」に焦点をあてて、授業実践を行った。対話活動の工夫を行ったことで、対話を通じた表現力の向上や授業への意欲向上が見られた。児童の意識調査の結果からも自分の考えを持ち、それを伝えようとする意識の向上が見られた。しかし、自分の考えを表現する意欲は出てきたが、他者の意見につなげて発言したり、質問をしたりすることにまだ半数の児童が課題を抱えている。また、単元全体を通じた振り返りの工夫や明確な視点の設定をしたことで、次の学びに向かう意欲や自分自身で疑問に思ったことを調べようとする意欲が高まっていた。しかし、ポイントの伸びはそこまで大きくはなく、まだ学習や表現することに意欲的になれない児童もいる。全ての児童の意欲を引き出す手立てを研究する必要がある。

エ 本校の児童の実態から

昨年度の熊本県学力・学習状況調査、菊陽町学力調査の結果から、全ての学年が全国平均を上回ることができた。特に、「主体的に学習に取り組む態度」と「思考・判断・表現」については、大きな向上が見られ、経年比較で10ポイント以上の向上が見られた学年もあった。これは、進んで考え、表現する児童を育てるために研究を重ねた効果が出てきているものと考えられる。しかしながら、3・4・5年生においては正答率40%未満の児童が増加したという結果もでた。全体的には学力の底上げが達成できたのだが、学力の分布を細かく見ると学力差が広がってしまったとも言える。授業中の様子においては、挙手する児童が数人に固定されていたり、解決の過程を説明する問題や問題場面や状況の違う問題になると発表を嫌ったり、やる気を失ったりする児童も見られる。

これらのことから、進んで考え、表現する児童を育成していく必要があると考える。

(3) 研究主題の捉え方

○「進んで考える児童」について

課題に対して「解きたい」「考えてみたい」「もっとやりたい」という姿勢をもち、自ら課題を見つけ解決していく姿と捉える。

○「進んで表現する児童」について

自ら考えたことを、文字や言葉、式、図などを通して進んで表現し、他者へ伝えるようとする姿と捉える。

(4) 研究の仮説及び視点

仮説1

学ぶ意欲を高める単元構成や導入の工夫を行えば、児童が主体的に考え、自分の思いや考えを相手に伝えようとするようになり、進んで考え表現する児童の育成につながるであろう。

(視点1) 単元構成の工夫

- ・ 子供に目的意識を持たせたり、学習の必要性を感じさせたりすることができる単元のゴールの設定

(視点2) 導入の工夫

- ・ 児童の「なぜ」「おそらく」「やってみたい」が生まれるような導入の工夫

仮説2

共に課題を解決していく学び合いの授業を積み重ねれば、対話を通して自分の考えを広げたり深めたりするようになり、進んで考え表現する児童の育成につながるであろう。

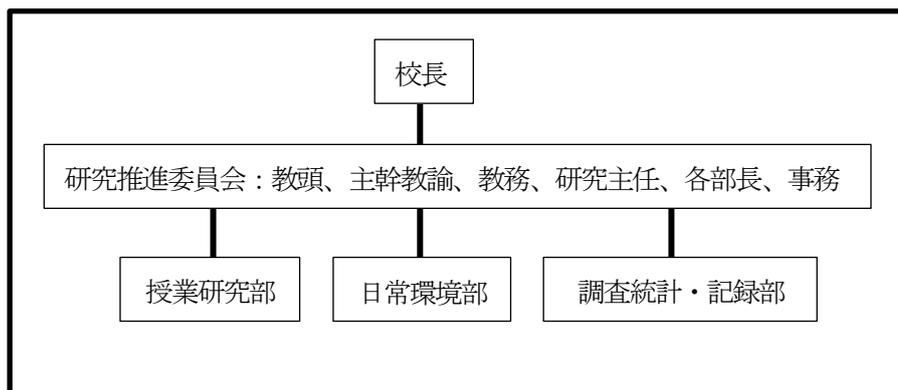
(視点3) 学び合いの工夫

- ・ 考えを広げたり深めたりできる学習形態の工夫
- ・ ICTを効果的に活用した対話活動の工夫
- ・ 児童が考えを広げたり深めたりできる教師のコーディネートの工夫

仮説を支える土台づくり

- ・ 学習規律の徹底
- ・ 「対話のスキル」の活用
- ・ 振り返りの時間の確保

3 研究組織



令和6年度 菊陽町立菊陽北小学校研究構想図

菊陽町教育目標

陽光「さん」と輝く人材を育む

～前途洋々 夢を育み 未来輝く 人材の教育は菊陽の力～

学校教育目標

夢をもち、夢をはぐくみ、
夢を実現する教育へのチャレンジ！ー考動カーー

校内研究テーマ

「進んで考え、表現する児童の育成」

～導入の工夫と学び合いに焦点をあてた授業づくりを通して～

単元構成や導入の工夫

学習形態の工夫

ICTを活用した対話

教師のコーディネート

P

D

C

A

児童の実態

人権教育